



CHALLENGER

[挑戦者たち]②



余部 amarube tetsukyou 鉄橋

建設して91年の長い歳月が経ちながら、その美しい姿で悠然とそびえ立つ余部鉄橋。そこには妥協のない技術屋の誇り……そして、男たちの熱いドラマがあった。

男たちの使命

頭がぼーとした。職場に戻っても、しばらく何もする気が起こらなかった。余部鉄橋の保守検査が終わった日は、全身に疲れが残った。

目の前には日本海、常に潮風にさらされる厳しい環境にそびえ立つ余部鉄橋は、常にサビとの戦いが強いられる。橋を管理する施設区のある福知山から香住町余部までは、片道2時間あまり。11脚ある橋りょう部分に飛来、あるいは付着した塩分の違いを調べるため、施設係たちは遠い道のりを月に1度、往復していた。山陰特有のどんよりとした雲が空を覆う。検査に入っても、晴天に恵まれることは少なく、強風で橋側歩

道の柵に体を押しつけられた。高さ41メートル、ビル15階に相当する高さには恐怖を感じることもしばしば。初めて調査に加わったある施設係は足がすくみ、検査ハシを這うように上っていた。現場に着いてから、検査日程を変えるわけにもいかず、風が治まるのを待たなければならなかった。

常に危険と隣り合わせの高所と強風の作業環境。それでも、彼らには危険に立ち向かわなければならぬ使命があった。それは、厳しい自然環境の中で、これまで余部鉄橋を守り続けてきた男たちの魂に報いる必要があったからだ。

余部村民の願い

全室露天風呂完備！日本海が一望！



朝食コース 9,800円税別
1泊2食(朝) 16,800円税別
予約受付中

余部温泉・自然の湯
余部の湯・湯平
〒629-3432 京都府熊野郡久美浜町湯平2130番地
TEL:0772-63-2020 FAX:0772-63-2022
<http://www.nandobei.org/>



平家の落ち武者伝説が残る、但馬北部の村、香住町余部地区。北に日本海、東西南の三方を山に囲まれている岬に位置する。

鉄橋建設が始まった明治42年当時は、全戸数わずか28戸の小さな漁村。

現在では地区を立派な国道が走るが、山陰本線が開通する以前は険しい峠道を越えるか、船で移動するしかない陸の孤島だった。当然、冬になれば海が荒れて、村から一歩も外へ出ることはできない。住民たちは、ただこの状況を受け入れるしかなかった。まさか、この渓谷の41メートル上空に汽車が走るなどと、当時思った人間は誰ひとりいなかったらう。

そんな状況下の中、明治42年12月山陰本線で一番の難所といわれた「余部鉄橋」の大工事が始まった。

保守管理の不安

工事着工の1年前、工事監督者として、若く25歳の青年技師が余部へ赴任してきた。現場を見るなり、思った、「この海岸に高い橋は維持が大変だ。保守に大量のペンキと人手がいる。これは鉄筋コンクリートにしなければならぬ」と後に地下鉄建設にも従事した、岡村信三郎だった。

岡村は、上司の許可を得て、鉄筋コンクリート案を鉄道院へ上申。さ

つそく東京から呼び出しがかかり、この計画を説明した。

しかし、答えは「ノー」。当時、鉄筋コンクリートの橋は世界的にも珍しく、日本では造られていなかった。「もしものことがあつてはいけない」と諭され、結局、鉄の橋で建設されることになる。この時、岡村の心配した保守の問題は、完成後3年目に現実のものとなるが、鉄橋建設の工事は急速な勢いで走り始めていた。

起こった奇跡

鉄橋の構造はトレスル式鉄材を橋に組む建築様式に決まった。設計は鉄道院技師・古川清一にゆだねられたが、当時の日本では高架橋式の経験が乏しく、トレスル式鉄橋の先進国・アメリカへ飛び、専門家の意見を聞くことになった。この時、トレスルとトレスルの間隔が60尺(約18メートル)と変更されている。基本設計通りに進められていけば、現在11脚あるトレスルが16脚となっていたことは興味深い。

トレスルの鋼材はアメリカの工場で作られ、九州の門司港へ運ばれた。そこから汽船に積み替えられ、余部沖でハシケに移し、陸揚げされる計画だった。この陸揚げがまず最初の試練となる。この積み替え作業中に

八町 新築 バードヒル円山台 好評分譲中

モニターハウス販売 詳細については、お問い合わせください

Vシリーズ 洋館風のクラシックスタイル、内装も上品	VXシリーズ 洋館風をベースにした、内装もバリエーション	ビッグライフの家 アウトドアを満喫する暮らしを実現
-------------------------------------	--	-------------------------------------

ジューダ JYU-DA

あなたの個性に合わせ、10の外観が選べる。しかも、すべて同一価格で建てられる。

おなじみのデザインも取りこみ、おなじみの価格帯のベストローコスト

クレパリーホーム 和歌山山田

和歌山県和歌山市 074-200-2626 2628

和歌山県和歌山市 074-200-2626

<http://www.k-repary.com>

CHALLENGER ② [挑戦者たち] 余部鉄橋



厳しい保守管理の元、
山陰本線の運行が可能になっている

もしものことがあれば、また、鋼材をアメリカから取り寄せなくてはならない。余部鉄橋の完成。山陰本線の開通となっていたこの時期、失敗は絶対許されなかった。工事監督者の岡村信三郎も気が気でなかった。

明治43年8月から始まった陸揚げ作業は、細心の注意のもとに始められた。ところが、いつも荒れがちな日本海が積み替え中に1度として、その裏の顔を見せることはなかった。普段、奇跡など信じない岡村も、この時はかりは天佑を感じたという。その後、余部鉄橋の工事では何かと天佑に助けられることが多かった。これも現場の人間、村人の思いが起こした奇跡なのかも知れない。

技術屋の魂

余部鉄橋の組立には、全国からたくさんの人夫が集まった。しかしながら、この職人たちが一筋縄にいかない荒くれ者ばかり。彼らは難しいことは手を抜き、今まで自分がやってきたやり方に勝手に変えた。岡村は頭を抱えた。

基礎工事中の玉石を引き揚げる作業中、事件は起った。余部の現場は、海拔3メートルの低地、1メートルも掘れば水が出る。中からは、一抱えもある玉石が出てくる。と

あった。

41メートルもある鉄橋には、なにより基礎工事が重要だった。現場は今のように排水の技術がなく、水の中の仕事を強いられる。水中での仕事を、彼らは何よりも嫌がった。

岡村は、手を抜くな」と怒鳴った。ある人夫は、「ほかの鉄橋など、石は石、セメントはセメントでぶち込んだようなものです。それでも、汽車がボツ、ボツと走っているじゃないですか」と言い返した。ことは人命に関わる工事、この言葉に岡村は憤慨した。数日後、潜水服を着用して、自ら穴の中に入り、玉石を全部引き揚げたが確認した。おかげで、基礎だけで1年かかったが、命は何にも変えられないと頑張った。

トレスルの組立にも、岡村は手抜きを許さなかった。鋼材と鋼材の組立には圧搾空気でリベットを打つが、岡村はリベットがよく打っているかどうか、毎日検査して回った。日本海特有の北西風「ウラミシ」が吹きつける20、30メートルの高い足場、それでも1本1本を確認した。リベットの数は6万8千本、まさにものづくりにおける魂を見せつける行動だった。こうして、強い信念のもと建設された余部鉄橋は、明治45年1月に完成。同年3月に晴れて開通し、それ

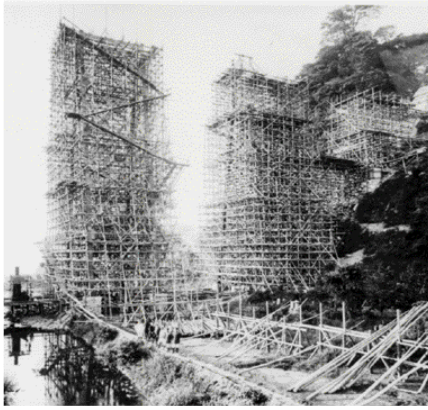
あなたの生活を応援します



但馬信用金庫

本店 / 豊岡市中央町17-8 TEL.0796(23)1200
http://www.tanahin.co.jp/

約2万本の木材で足場を組んだ建設当時の様子



かつて「橋守」と呼ばれる男たちが、命がけで保守に努めた



橋脚に付着した塩分を調べる管理員



は同時に、京都から出雲を結ぶ山陰本線が全線開通した記念すべき日となった。しかし、本当の戦いはこれからだと岡村は考えていた。

橋守の伝説

建設から3年が経過した、大正4年。当初から岡村が心配していた橋脚の腐食の問題が表面化していた。海からわずか70メートルの場所に位置する余部鉄橋は、橋脚のサビが特にひどく、ほかの鉄橋と比べてもその腐食の速度はすば抜けている。

この厳しい自然環境の中、その美しい姿を維持していくには並々ならぬ努力がいった。そこには、橋守と呼ばれる男たちの活躍があった。

大正6年、建設当時から、日本へ「イント製造」の社員として、現地に向していた上倉音吉と望月保吉の2名が鉄道院職員となり、専属工手と

して余部に配置された。

ふたりは見張番所に詰め、橋脚の監視、鋼材にペンキを塗り続けた。コンドフで作業をする訳にはいかず、まるで綱渡りをするように橋りょうを渡っていく。太平洋戦争中は補修鋼材、ペンキが不足し、橋の腐食はますますひどくなっていた。それでもこの美しい橋を守ろうと少ない物資で、管理に全力を注いだ。

昭和20年、終戦を迎え、橋守のもとにペンキ1千缶が支給。昭和10年以降、ひとりで鉄橋を守っていた望月は、懸命にペンキを塗り、危機に直面していた余部鉄橋を蘇らせた。この話は、今多くの人々に語り継がれる伝説となっている。

その後、昭和38年に直轄保守が廃止されるまで、6人の男たちが毎日橋によじ登り、但馬の厳しい気候から鉄橋を守り続けた。

魂は受け継がれる

建設から91年、今も悠然とそびえ立つ余部鉄橋。しかし、その裏側には妥協を許さない工事、橋を守り続けた男たちがいたことを忘れてはならない。その不屈の精神は、現代にもしっかりと受け継がれている。

橋脚に飛来、付着した塩分の違いを調べるため、片道2時間の道を通った施設係。5年間データをとり続けた結果、場所によって約10倍の腐食減量の違いがあることが分かった。これにより、より効果的な防錆作業が可能となり、先輩たちの残した遺産の保守管理に日々努めている。

厳しい自然環境に耐え続けてきた11本の橋脚。そこには、熱い男たちの思いが何重にも塗り重なって、山陰本線の運行を可能にしている。協力：JR西日本福知山支社

不動産のことならライフフィットへ!



本 店 豊岡市幸町4番4号 TEL.0796-24-2011 FAX.0796-24-2077
 豊岡駅前店 豊岡市大手町1番27号 TEL.0796-26-6565 FAX.0796-26-6566

ご希望の物件情報を検索
 できます
 大好評! 情報誌「ライフ
 フィットタイムズ」進呈中!!



株式会社 ライフィット
 (社)兵庫県宅地建物取引業協会 宅地建物取引業者免許
 兵庫県知事(3)第650061号
 ホームページ <http://www.lifit.jp>
 E-mailアドレス info@lifit.jp

